《報　告》

ドイツにおける臨床 PET 事情

田代　　学*　　窪田　和雄**　　伊藤　正敏*　　佐々木英忠***
Ernst Moser****

* 東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター核医学研究部
** 東北大学加齢医学研究所機能画像医学分野
*** 東北大学医学部老年・呼吸器病態学講座
**** Albert-Ludwigs 大学付属病院核医学科

要旨　日本およびドイツにおける臨床 PET 事情を調査した．サイクロトロン施設数は日本 29 施設：ドイツ 17 施設と日本が多かったが，臨床 PET 施設数は 29：47 とドイツが多かった．ドイツにおける PET 施設数増加の原因として，他施設からアイソトープ供給をうけるサテライト施設の運営が活発であることと，RI の輸送・売買の自由度が高いことが挙げられる．また保険適応は，日本では慢性脳血管障害に対する酸素 15 ガスの利用が認められているのみであるのに対し，ドイツでは腫瘍，脳，心臓の 3 部門にわたり保険適応疾患リストが完成し，すでに適用されている．

両国の制度の相違により，すべてを取り入れるのは不可能と思われるが，今後日本における臨床 PET 検査普及を推進するための体制づくりの一環として，「サテライト構想」，保険適応疾患リスト作成などは，アメリカ以外の社会医学的モデルとして検討する余地があるものと思われる．

(核医学 **36**: 761–772, 1999)